

第九たいむず *Beethoven*

No.19 2016.10.6 通刊1209号 担当 Todo

ホームページ: www.takasaki9.com メールアドレス: takasaki9@myad.jp

〒370-0863 高崎市聖石町9-13(赤羽方) TEL/FAX:027-322-0996 緊急 090-1828-8052(小野里)

めっきり涼しくなったかと思うと日中は暑くなったりと変化の多いお天気ですが、確実に秋の気配を感じるようになりました。10月に入り、演奏会まであと2か月です。気を引き締めて練習に臨みましょう。

◆ 第43回ソリスト紹介③ テノール 錦織健(Ken Nishikiori)

＜高崎第九合唱団との共演は第40回(2014)に続き2回目＞

国立音楽大学卒業。文化庁オペラ研修所第5期修了。文化庁在外研修員としてミラノに、また、五島記念文化財団の留学生としてウィーンに留学。第17回ジロー・オペラ賞新人賞、第4回グローバル東敦子賞、第1回五島記念文化賞新人賞、第6回モービル音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。

1986年「メリー・ウイドウ」カミーユ役でデビュー以後、数多くのオペラ公演に出演、また第九や宗教曲等のソリストとしても高く評価を受けている。2002年からはオペラ・プロデュースも始め、2015年には第6弾モーツァルト作曲「後宮からの逃走」を手がけた。2012年からはNHK-FM「DJクラシック」のパーソナリティーを務めるなど幅広く活躍。



◆ 本日は駐車料金の清算日です

本日は駐車料金の清算日です。専用の清算用紙に木曜日の練習時間内で1回200円以上の領収書を5回分貼り名前を記入して受付に提出してください。一律1000円と交換します。1回の領収書が200円未満の場合は、その領収書は取っておき、次回200円未満の領収書と一緒に2枚を1回分とします。清算日に忘れた人、又お休みな どで5回分の領収書がない人は、次回11月3日(木)の清算になります。清算日は毎月第1木曜日のみです。清算日当日は受付の混雑が予想されますので少し早めにお出掛けください。

◆ 演奏会チケットを販売しましょう

チケットの売り上げにより演奏会にかかわる全ての費用を賄っています。自分たちの演奏を周囲の人に、聴いて、観て、楽しんで頂くために演奏会を積極的にアピールしていきましょう！私たちの演奏会です。1人1人が売るという努力をしていきましょう。

またチケットは1枚でも売れたらその都度、代金、封筒を持って受付で清算してください。私たちの演奏会です。音楽センターをお客様で満杯にしましょう！！

◆ 演奏会のチラシ・ポスターあります！

第43回第九演奏会のチラシ、ポスターが出来上がっています。ポスターを貼ったり、チラシを友人知人に配るなど演奏会の宣伝をしていただき、第九の輪を広げていきましょう。検印が済んでいるポスターは屋外に貼ることが出来ます。(貼る場所は必ず許可を得て貼り、演奏会終了後は貼ったままにせず、剥がすのも忘れずに行ってください) 皆さんで協力して宣伝していきましょう！

◆ 「イオン幸せの黄色レシートキャンペーン」11日はイオンへ行こう！

2月までの毎月11日イオン高崎でお買い物したあとの黄色いレシートを当団のボックスに投函していただきますと、後日その1%がイオンから寄贈されます。今、皆様がお読みになっているたいむずに使用している用紙は、このキャンペーンでいただいたものです。ぜひ黄色いレシートキャンペーンにご協力をお願いします。次回は来週10月11日(火)です。

◆ 広告プログラム広告を募集します

演奏会のプログラムに掲載していただける企業やお店等募集しています。要項、見本もあります。詳しくはアルト原さん、中島さんまで。締切りは10月27日(木)です。

◆ 今後の予定

11月5日(土)～6日(日) 軽井沢レッスン(武蔵野音大軽井沢研修センター)
11月24日(木) 指揮者レッスン(渡邊一正氏が練習会場で指揮をします)
12月10日(土) 第43回第九演奏会(群馬音楽センター)
12月18日(日) 足利の第九(男声の応援をお願いします。詳細は後日連絡します)
12月15・22・29日 & 2017年1月5日(木)は練習お休みです
1月12日(木) 新年会・歌い初め(練習会場)
5月28日(日) メイコンサート(群馬音楽センター)

◆ 演奏会に向け新人さんより抱負③

テノール 戸谷宏之さん

皆さんこんにちは。新入団員の戸谷宏之です。伊勢崎在住です。37年間の教員生活を終え、今までできなかったことを何か一つやってみようと思っていたところ、矢島夫妻を通じてこの合唱団のことを知りました。合唱未経験者でも大丈夫かな、という不安から、恐る恐る練習に参加し始めましたが、赤羽団長を始め親切な団員の方々のおかげで、今は週1回の練習日を心待ちにしています。

第九では、学生時代に習ったドイツ語の発音とは少し違う歌い方に最初は戸惑いましたが、今は心地良い響きを楽しんでいます。クリスマスメドレーでは他のパートの音に引きずられないよう悪戦苦闘しながらも、合唱の楽しさがわかってきたような気がします。

練習後、高崎駅まで歩きながら、口笛でその日のパートを吹いてしまいます。「口笛を吹きながら早足で歩くおじさん」て、知らない人は不気味だろうと思いますが、楽しくて仕方ないです。12月の本番では「歓喜」の涙が流せるよう。しっかり練習していきたいと思います。



◆ “Freude”について

バス 安達伸一

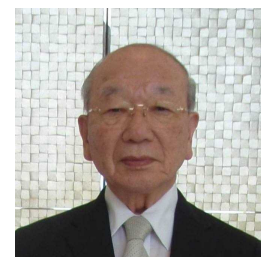
私の古いドイツ語辞書のFreudeの訳は、「喜び、嬉しさ、歓喜、楽しみ、満足、興味；喜びを与えるもの」と書かれている。更に「歓喜」は日本語の辞書には、「非常に喜ぶこと。また、心からの喜び。「歓喜して躍り上がる」と書かれている。しかし、Freudeを歓喜、喜びだと理解してもなぜか実感が湧かない。それで、昨年9月に私が自己流で訳した「ベートーベン第九歌詞直訳」(25年度第九たいむずに掲載)の、

●Freude, Freude, schöner Götterfunken, Tochter aus Elysium, の所を再度見て貰うと、「喜びよ、それは美しい神々の輝き(神の光り輝きながら燃える精神)であり、理想郷の娘である。(特別な力を持った女神:具体的な存在ではなく、「喜び」を象徴する一つの概念として捉えた方が自然であろう。)」と書いている。

また、北大高橋名誉教授は、Freude(歓喜)とは、「神への熱狂・神的感激表現」のことであり、さらに「神がかった恍惚、尋常ならぬ感激」と解説している。これは、18世紀の道徳哲学では「Freudeとは感激、神的熱狂、狂信」であったことからの論理のようである。さらに、シラーとベートーベンの二人にとっての真の主題は「神が存在するか、しないか」とであると説いている。

私の<第九>の著者藤井義正氏は、「歓喜に寄す」は単に「喜びを歌ったもの」でもなく「喜びの持つ人間学的な意味」を考察し、その意義を称えようとしていると述べている。

と言う事で、Freude(歓喜)の概念は難しい。Freude(歓喜)とはひとつの感情でありながら、個人的なものを超えたもっと大きな力だと考えた方がよいのではなかろうか。



◆ 10月生まれの皆さん お誕生日おめでとうございます！



安藤 淑子(2日/A)	今井 勝枝(3日/S)	坂本 裕子(7日/S)
堤 香代子(10日/A)	中村 勉(19日/B)	高橋 正江(20日/A)
沼賀 信宏(27日/B)	今井 昭彦(28日/T)	板倉 啓子(30日/S)